

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SJMP3101
2. 授業担当教員	西村 彩恵		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーションなどを取り入れた形態を重視する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	2年以上、児童・家庭福祉論を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、児童・家庭福祉論で学んだ、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動などを復習した上で、児童・家庭福祉論Ⅱでは、子ども家庭にかかわる福祉・保健政策について、とりわけ子どもの貧困など、グループでテーマを設定した上で、学習を進め、成果を発表する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。授業の進め方は、授業開始時に分けたグループでの研究が基本となる。また、学生が授業運営に参画する度合いを増やす。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 ・グループでの研究を通じて、文献の読み方、資料の集め方、調査の方法を理解し、活用できるようにする。 ・グループでの研究を通じて、研究の目的、方法、結論、考察をいった手順を活用できるようにする。 ・グループでの発表を通じてプレゼンテーションの方法を身につける。 ・その他、文章の要約方法、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループディスカッションを通して、グループごとに研究テーマを設定する。テーマに関する近年の動向や学術的な知見を含めて整理し、グループでの見解を踏まえてその学習成果を発表する。 2. 授業の学習成果として、発表内容をグループで深め文章でまとめる(研究授業論集)。 3. 授業内容に応じて、グループでの討議内容を踏まえ、自己の見解を文章でまとめ提出することがある。グループディスカッション・発表、研究授業論集の作成を行うため、各自、各グループには真摯に学ぶ姿勢と主体的な参加が求められる。また、グループ活動が中心となるため、グループ内で協力し合い、各自の強みを生かして取り組むことが重要となる。そのため、グループディスカッション・発表、研究授業論集の作成を含め一連の活動に対する受講姿勢を、授業への貢献度として加味する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】適宜プリントを配布する。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第7版 中央法規出版。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 2. グループでの研究を通じて、研究のスタイルを理解し、活用することができる。 3. 発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につけ、活用することができる。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 (調査・ディスカッション・発表) 総合点の40% 2. 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査・提出物) 総合点の30% 3. 課題レポート 総合点の30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業を進めるにあたり、下記の4つの項目に留意すること。また、授業の進捗状況・理解度、受講者数に応じて、授業内容等を変更する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ活動が中心となるため、遅刻、欠席に注意し、やむを得ず欠席する(した)場合は書面で教員に届け出ること。遅延の場合は、遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出すること。遅延の累積回数が多い場合は、遅延を認めないことがある。なお、出席状況の自己管理を徹底すること。 2. レポートの提出期限を遵守すること。提出期限後の提出は、減点の対象となる。 3. 私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、グループ活動等での非協力的な姿勢、その他授業を妨げる行為は慎むこと。一連の受講態度は、減点の対象となる。 4. グループワークを行うため、全員での取り組み姿勢と各自の研究姿勢が求められる。 		
13. オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントを取って下さい。メールアドレス: sanishim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション： 授業の進め方についての説明とグループの決定	事前学習	シラバスに目を通し、講義概要、学習目標等について理解を深める。児童・家庭福祉論で学んだことをふり返し、子ども家庭福祉に対するイメージを整理しておく。
		事後学習	授業内容を確認し、配布資料をファイルに綴じる。授業内容を復習し、近年の子ども家庭福祉に関する動向を調べる。

第2回	現代社会と子ども・子育て家庭の問題 研究テーマの決定と情報収集 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	子ども・子育て家庭をめぐる問題について、自己の体験やこれまでの学習をふり振り返り整理する。また、近年の子ども家庭福祉に関する動向を調べる。
		事後学習	授業内容を復習した上で、子ども家庭福祉分野の中で関心のあるテーマや内容の候補を見つけ、それに関する近年の動向を含めて情報を収集する。
第3回	中間発表に向けた準備とその進め方① 問題関心の検討と発表準備	事前学習	各グループが発表に向けて、テーマに関する資料を集めておく。調査する場合は、事前にアポイントメントを取り、調査内容を絞り込む。
		事後学習	決定したテーマに関して現状を把握するため、関係資料を整理する。問題関心の設定を行うための考え方や進め方について確認する。また、他のグループでの進捗状況を参考にしながら、自分のグループでの中間発表の準備に活かす。
第4回	中間発表に向けた準備とその進め方② プレゼンテーションの方法と発表準備	事前学習	各グループが発表に向けて情報収集・整理を行い、資料を作成する。調査する場合は、事前にアポイントメントを取り、調査内容を絞り込む。
		事後学習	プレゼンテーションの方法について確認した上で、実際にパワーポイントを作成し練習する。グループでの発表と質疑応答に備えて、グループで資料を準備し、発表に向けた手順や担当について確認する。
第5回	中間発表に向けた準備とその進め方③ プレゼンテーションの方法と発表準備	事前学習	各グループが発表に向けて情報収集・整理を行い、資料を作成する。調査する場合は、事前にアポイントメントを取り、調査内容を絞り込む。
		事後学習	プレゼンテーションの方法について確認した上で、実際にパワーポイントを作成し練習する。グループでの発表と質疑応答に備えて、グループで資料を準備し、発表に向けた手順や担当について確認する。
第6回	中間発表①：現状把握と今後追究するテーマ グループによる発表	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。プレゼンテーションの方法について復習する。発表内容を整理し、役割分担を決めて発表に備える。
		事後学習	グループ内で発表内容を整理・吟味し、発表に備える。また、各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。
第7回	中間発表②：現状把握と今後追究するテーマ グループによる発表	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。プレゼンテーションの方法について復習する。発表内容を整理し、役割分担を決めて発表に備える。
		事後学習	事例研究とプレゼンテーションの方法について復習し、発表内容を整理する。また、各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。
第8回	中間発表③：現状把握と今後追究するテーマ グループによる発表	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。プレゼンテーションの方法について復習する。発表内容を整理し、役割分担を決めて発表に備える。
		事後学習	事例研究とプレゼンテーションの方法について復習し、発表内容を整理する。また、各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。
第9回	最終発表の準備とその進め方① グループによる事例検討と発表準備	事前学習	中間発表の内容を踏まえて、最終発表に向けて事例を選定し検討する。調査する場合は、事前のアポをきちんと取り、調査内容を絞り込む。
		事後学習	文献検索など情報収集の方法を踏まえて、情報を再度整理し、要点をまとめる。テーマに関する事例を見つけ、取り上げたい理由、概要、考察をまとめる。
第10回	最終発表の準備とその進め方② プレゼンテーションの方法と発表準備	事前学習	中間発表の内容を踏まえて、最終発表の内容を整理する。調査する場合は事前にアポイントメントを取り、調査内容を絞り込む。
		事後学習	プレゼンテーションの方法について確認した上で、実際にパワーポイントを作成し練習する。また、他のグループでの発表に関する進捗状況を参考にしながら、自分のグループでの最終発表の準備に活かす。

第11回	最終発表の準備とその進め方③ 研究授業論集の作成方法と発表準備	事前学習	中間発表の内容を踏まえて、最終発表の内容を整理する。調査する場合は、事前のアポイントメントを取り、調査内容を絞り込む。
		事後学習	研究授業論集の作成方法について確認し、作成に着手する。また、他のグループでの発表に関する進捗状況を参考にしながら、自分のグループでの最終発表の準備に活かす。
第12回	最終発表①：これまでの学習成果とまとめ グループによる学習成果の発表	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。プレゼンテーションの方法について復習する。最終発表に向けてその内容を整理し、発表に備える。
		事後学習	グループ内で発表内容を整理・吟味し、研究授業論集の作成に活かす。また各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。
第13回	最終発表②：これまでの学習成果とまとめ グループによる学習成果の発表	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。プレゼンテーションの方法について復習する。最終発表に向けてその内容を整理し、発表に備える。
		事後学習	グループ内で発表内容を整理・吟味し、研究授業論集の作成に活かす。また各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。これまで作成した研究授業論集の原稿を推敲する。グループでの一連の活動をふり返し、個人での学びだけではなく、グループでの学びに対する見解を整理する
第14回	最終発表③：これまでの学習成果とまとめ グループによる学習成果の発表	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。プレゼンテーションの方法について復習する。最終発表に向けてその内容を整理し、発表に備える。
		事後学習	グループ内で発表内容を整理・吟味し、研究授業論集の作成に活かす。また各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。これまで作成した研究授業論集の原稿を推敲する。グループでの一連の活動をふり返し、個人での学びだけではなく、グループでの学びに対する見解を整理する
第15回	全体の総括	事前学習	これまで学習してきた一連の活動プロセスをふり返し、研究授業論集を推敲し、最終発表や授業全体で学んだことを確認する。特に、グループで作業した内容については、今後に生かすための視点や今後の課題をまとめ、研究授業論集の提出に備える。
		事後学習	授業内容や一連の活動をふり返し、今後の課題を含めてノートにまとめる。資料は、全てファイリングする。